

行事予定

【菊舎顕彰会総会】

期 日 五月四日(予定) 十三時三十分より
場 所 下関市豊北町・田耕促進センター

【企画展「蔵の中で見つけた菊舎の世界」】

期 日 五月十三日(金) ～五月二十二日(日)
展示場所 長府庭園 三の蔵
展示時間 午前九時三〇分～午後四時三〇分
(二十一日は午後三時まで)

展示内容 菊舎掛軸・会員による写真や絵葉書他

【菊舎顕彰俳句大会】

十月十六日(日) 田耕促進センター
(詳細は後日お知らせいたします)

【研修旅行】

検討中

* 各行事とも新型コロナウイルスの状況によっては中止となる場合があります。

伝言板

『手折菊』復刻版を差し上げます。

来年は菊舎生誕二百七十年となります。その記念事業として、菊舎著『手折菊』の復刻版を有効活用して頂ける方に無償で提供いたします。対象は図書館(公立・私立を問わず)、博物館、美術館などの学芸員、文学系の研究室及びその学生、また個人的に研究を希望されている方です。お問合せは、電話(090-8714-6804)またはメール info@kikusha.com 菊舎顕彰会まで。詳しい内容は、顕彰会のホームページに追って掲載しますのでそちらをご覧ください。

「菊舎展を観て」

劇団海峡座主宰 武部 忠夫

太翔館のレトロ感もさりながら、菊舎顕彰会のイベントは、寒中に汲みあげた井戸水の温もりを思い出させる清々しい気分を与えて頂きました。紙芝居も展示物も、菊舎さんがこの地域の人達に大切にされていることを実感させました。(中略)

それにしても菊舎さんの書簡、俳画、軸物等、貴重な展示物には息を呑むような臨場感を味わいました。とてもとても貴重です。と同時によくぞ丁寧に保管されていたものだと思ふ。主にお寺さんでしようが、個人蔵もあり、田耕の地域の人が大切に遺してきた愛憎感が紙背に窺えるようです。

紙芝居はお見事でした。背景の屏風が空気を醸し出し(書は佑さんでしょうか)、清楚なステージングの趣向、そして紙芝居フレームの気品。紙芝居お姉さんのメリハリの効いたよく透る声、あとで先生業で培った声としりましたが、いいメンバーがいますね。

昔、赤江 瀑さんと教育論議のなかで、「先生と役者は声が一番だ」と語りあいましたが、彼も教師の家庭に育ち痛感していたようです。さらに磨いて欲しいものです。画面もさすがに配慮行き届き、分かり易い上に陰影もあり絵描きの手腕発揮。
往きは曇天でしたが、豊北の空は晴れ渡り、小生の心も。(中略)

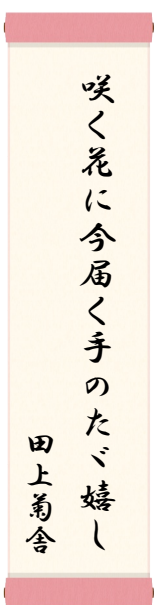
(手紙文技抄)

【編集後記】

「菊舎展」を無事終えることが出来、スタッフ一同ほっとしています。太翔館のイベントとしては、かなりの盛況ぶりだったようです。来年度の主な行事も決まりました。あとは、今のコロナ禍の状況はやく落ち着いてくれることを願うばかりです。今後とも会員の皆様にはご指導、ご協力よろしく申し上げます。(清)



第22号
令和4年3月
発行
菊舎顕彰会
〒759-5512
下関市豊北町田耕
電話083-783-0734
FAX 083-783-0734
e-mail
info@kikusha.com



『菊舎のおはなし』を発行して

会長 磯部 多恵子

顕彰会の思い出

内田 恒生

平素より会員の皆様には、菊舎顕彰会の活動にご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は一昨年同様コロナ蔓延防止のため、活動が思うように行なえませんでした。『菊舎のおはなし』を発行できたことは何よりも喜びです。この冊子は学生の方々にも菊舎を知っていただき、より身近に感じて欲しいという理事の内田恒生氏の思いから生まれました。その思いを受けて、岡昌子氏と菊舎研究会の方々が推敲を重ね、一年をかけて制作した一冊です。味わい深い挿絵は理事の中村佑氏によるものです。

この冊子は、皆さまからいただいた会費と下関市の市民活動支援補助金で制作することができました。千部発行し、市内小中学校・図書館・公民館などに寄贈いたしました。お陰様で菊舎のことをよく理解できると好評です。来年度には増刷の予定で、有料とはなりますが、より多くの皆様に読んでいただきたいと思っております。

また、この冊子の出版を担当してくださいました瞬報社の佐野真理恵さんと久我美月さんにも、今回この会報に寄稿していただきました。これを機会に若い世代の方々にもっと菊舎の魅力を伝えることが出来れば幸いに存じます。

このような活動ができますのも、日頃の会員の皆様のお力添えの賜物とこの場をお借りして厚くお礼申し上げます。時節柄お身体くれぐれも気をつけてお過ごしくださいませ。

田耕小学校に赴任したのが二〇〇七年、はや十五年が経とうとしています。その年の五月、当時の会長の岡昌子さんが来校されました。校務技士さんから前もって、「岡会長が来られますよ、来られますよ」と再三言われておりましたので、覚悟をしていました。素直に顕彰会に入会しました。三年で転動しました。ちよっとほっとしたところがありましたが、会との縁は切れませんでした。なぜ、会員をやめなかつたかはよくわかりませんが、田耕小学校で教えていただいた俳句を、私が気に入ったことも理由の一つだと思います。夜の句会に誘われ昼の句会に移動し、参加者が少なくなる中、岡さんにストレートに批評され、時々ほめられる心地よさかもしれません。

また、たくさんの行事のお手伝いをさせていただきましたが、俳句相撲の行司役は、最も忘れがたい思い出です。調子に乗って初めから声を出しすぎ、途中で声が裏返り、会場の皆さんに笑っていただきました。皆さんは、私がわざとそのような声を出したと思われたようですが、そのことを私は一人でおかしくありません。

さて、中学校に続き小学校も一つになった今、またコロナ禍の終息が見えない中、顕彰会の今までと今後を時々考えます。田耕小学校があった頃、児童生徒や地域に働きかけていたことが、やや遠くなったと感じられるのです。しかしその一方で、磯部多恵子新会長のもと、新しい会へと変っていくチャンスと言えるかもしれません。句作のおかげで、私の頭は今のところ、特に異常はありません。会員を続け、できるお手伝いをしたいと考えています。(菊舎顕彰会理事)

